

七尾西湾周辺～大津潟

「水鳥の楽園」に飛来する鳥たち



気軽に野鳥観察を楽しめる  
「田鶴浜野鳥公園」

和倉温泉から車を走らせること約10分、七尾西湾周回道路右手に「田鶴浜野鳥公園」が見えてくる。

野鳥公園では、四季を通じさまざまな鳥たちを観察することで、県内外から多くの観光客、愛鳥家たちが訪れている。

ビジターセンターには大型双眼鏡や小型望遠鏡が設置され、気軽に野鳥観察を楽しむことができ、常駐の解説員はいないものの、写真やイラストなど多くの資料が展示してあり野鳥について知ることのできる。

写真パネルにはコウノトリやクロツラヘラサギ、ハイイロペリカンなど西湾に飛来した珍しい鳥の姿や、魚を食べる猛禽類（ワシ・タカ）の「ミサゴ」などが写っていた。

珍鳥との出会いを期待しつつビジターセンターの2階へ上がり、双眼鏡で野鳥の姿を探す。川尻川の河口にある干潟には、海鴨をはじめたくさん水鳥を観ることができた。

水鳥の聖域「川尻川河口干潟」

この干潟は県内で唯一（日本海側でも数少ない）人の手が入らずに残っている自然のままの河口干潟で、

引き潮時には1haほどの広さになる。ここには、たくさん鳥たちが集まり、貝やエビなどをついばむ姿を観察できる。また、運がよければビツクリするような珍鳥を目にするこができる場所でもある。

1時間ほど珍鳥や大物（ハクチョウやヒシクイ、コクガンなど）を探してみたが、残念ながら発見できなかった。それでも10種以上の鳥類は観察することができたであろうか、鳥類の判別は難しい。



干潟に集まる水鳥

次に訪れるときまでには少し勉強しておこうと思いつつ野鳥公園を後に、「大津潟」へと向かった。

カモ類の発着基地「大津潟」

国道249号線へ抜け、道路左手に注意しつつ穴水方面へと車を走ら

せると、数分で「大津潟」に着く。見過ごしてしまいそうなくらいひっそりたたずむ国道脇の潟湖は、面積約9ha、周囲約1・3kmと小さいが、渡り鳥の中継地にあたり、カモ類の発着基地、野鳥の観察地として知られている。

10月下旬には、北国から渡来してきた渡り鳥が旅の疲れを癒し、半月ほど滞留した後、さらに南下して姿を消すが、3月には再び集合して、体調を整え、大群をなして北の故郷へ旅立っていく。冬鳥の駅のようなものであるのか。ときには50種以上8千羽を超える鳥たちが来着し、湖面を賑わせるという。

この日の湖面は、鳥影が薄く感じられた。カモ類を中心とした水鳥の数は5百羽ほどであろうか、ハクチョウなどの大物や珍鳥の姿も観ることができなかった。

後で教わったことだが、大津潟にはハクチョウはほとんどやってこないらしい。

新潟県にある、ほぼ同じ大きさの瓢湖には、毎年5千羽ものハクチョウが越冬し、全国的にも有名な観光地となっている。また、羽咋の呂知潟でも越冬していることを考えればここ「大津潟」もハクチョウの越冬地となりうる大きな可能性を秘めている。ハクチョウが飛来しない原因を解明し、取り除かれる日が来ることを待たれる。